

束芋

尊敬の三

私たちは相対的関係のなかで生きている。私自身の制作活動をとってみてもそうだ。もしつくったものを私だけが鑑賞するとしても、“制作者としての私”と“鑑賞者としての私”の間には相対関係が成り立つ。

私は鑑賞者を喜ばせるために制作しているわけでもなければ、共感を得るために制作しているわけでもない。私自身が制作者としてつくりたいもの、鑑賞者として見たいものをつくっている。とはいえ、私以外の鑑賞者を無視しているわけではもちろんない。正確に言えば、私は鑑賞者をとっても尊敬している。

鑑賞者全体の唯一のサンプルになり得る“鑑賞者としての私”の五感を信じ、その五感を満足させるような、さらにいうと初めての体験を与え、驚かせるようなことを私はいつも模索している。それは新しいテクノロジーを使って作品を演出するということができない。私ができることをできる限りやることで、誰もやらないところまでもっていく。すなわち、繊細な作業をとことん積み重ねるということだ。

もし、私が鑑賞者を尊敬していなければ、手間のかかる繊細な作業の必要性に気づくことができなかっただろうと思う。たとえば、鑑賞者の目はどんなところまで見抜いてしまうか。そのレベルが低いと判断してしまえば、鑑賞者をごまかせると思えてしまえ

角関係





表紙◎プレゲによる正式証明書
所蔵／プレゲ・ミュージアム(パリ)、ヴァンドーム広場)
撮影／合田昌弘
(協力／『時計Begin』世界文化社)

たばいも……1975年兵庫県生まれ。現代美術家。京都造形芸術大学卒業。アニメーションを使ったインスタレーションで知られる。2000年に「キリンコンテンポラリー・アワード1999 最優秀作品賞受賞記念作品展」(KPOキリンプラザ大阪)、『01年「横浜トリエンナーレ2001」、『05年「キリンアートプロジェクト2005」(東京、大阪)に出演。同年、James Cohan gallery(ニューヨーク)にて個展、『06年、原美術館にて「ヨロヨロン」展を開催。10月にパリのCartier foundationにて個展を予定。

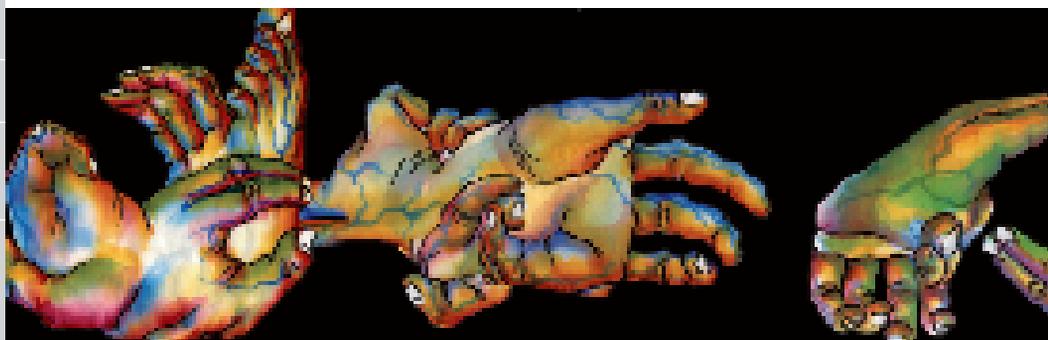
ば、作業は楽になり生産性が高くなる。でも、実際に鑑賞者の目ははかりしれないほど厳しく、優秀だ。その目と対峙するには、私はどんな努力も惜しんではならない。

そんな鑑賞者との関係性が、“制作者としての私”の予想がおよばないところまで作品を引き上げてくれる。そうやってできあがった作品は制作者にとっても鑑賞者にとっても驚きを与えてくれるものになり、その作品の完成によって、制作者と作品、そして鑑賞者の三角関係ができあがる。その三角関係はその後成長していき、さらなる驚きを与えてくれるものとなる。

日常生活を送る際にあたりまえに大切な「相手を尊敬する」という行為が、制作の現場でも尊敬の関係性をつくりだす。ものづくりとは何か特別なものと考えられがちだが、重要なことは私たちの日常生活や社会生活でも変わらない。その三角の図形が大きくなったたり複雑化したりすることで、美しい『尊敬の三角関係』を維持することはとても難しくなっていくとは思いますが、どこか一つの点から始めていかなくても『尊敬の三角関係』は形成されないだろう。

C o n t e n t s

- 2 技術に会う 6
尊敬の三角関係 束茅
- 4 HITACHI FILE talk+
 - 1 日立の技術を世界のがん治療現場へ——米国へ「陽子線治療システム」を納入 浅野克彦
 - 2 ろうの社員自ら企画・運営する 手話案内サービス 田中英之 信田光宣
 - 3 ナノインプリント——ナノ構造の低コスト・大量複製を可能に 西内重治 宮内昭浩
- 特集 博物館へ行こう!
——21世紀のミュージアロジー
- 10
 - 12 記憶から創造へ——博物館への招待 港千尋
 - 14 開かれた博物館——九博まるごと探訪記
 - 22 21世紀のミュージアムとは——東京大学総合研究博物館からの展望 西野嘉章
 - 25 ミステリーハンター・はまじの世界ふしぎ博物館ガイド
- 26 technobscure 6
田所美恵子「Réflexions Parisiennes」
- 28 永瀬唯のサイエンス・パースペクティブ 6
ポンプ——人間の営為を支える「揚水」のメカニズム
- 33 ダントツさんが行く! 5
DVDレコーダー
- 34 技術の日立・今昔 2
HDD



「ギニョ」(2005)